

# 九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2014 『地域を診ること』……に気付いた夏



本日は、九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2014に参加した薬学生と看護学生にお話を伺いました。

## セミナーに参加していかがでしたか？

(齋藤) 正直最初は、主体的にというよりは学部の先生に勧められての参加だったんですが……参加してよかったです。

(鈴木) そうだね。私も最初は今一つ乗り気ではなかったけど、医学生と薬学生と交流が持てるって聞いて……少しは自分の勉強になるのかな？って思って参加しました。私も参加してみて、ホントよかったです！最初は何をすればいいのかわからず不安な気持ちでの参加だったけど、医学や薬学の先輩方が本当に知識や経験が豊富で……圧倒されちゃったけど、すごく刺激的な2日間でした！

(谷本) 僕はこのセミナーは去年に続いて2回目の参加なんだけど、今年の方が盛り上がってたね！僕は実家が薬局で、これからの薬局経営には「地域医療」っていうのが、高齢社会へのサービスを充実させていかなきゃいけないと思って今年も参加したんだ。実際には、高齢者から直接インタビューできるようなグループには入れなかったんだけど……(笑)でも、自治体ごとに高齢者支援の事業形態が異なっていることを見聞して、地域ごとの政策決定の背景やプロセスにすごく興味を覚えました。やっぱり、「地域を知る」ってことが改めて大事なんだなって。

(椎名) 僕も高齢者支援に興味があって参加しました。1期(5月～7月中旬)に薬局実習を終えて、認知症の患者さんへのアプローチの難しさを実感していました。このセミナーで何かいいアイデアが見つからないかなって？今回のセミナーでは僕も直接高齢者の方たちに触れあうことができなかったけど、ご家族の方たちとはいろいろな話を伺うことができ……。薬局実習では、とにかく患者さんに目を向けてしまっていたけど、患者さんだけではなくご家族の方との信頼関係っていうのが、結果として患者さんにとっての最適なアプローチの仕方について、いろいろと考えさせられました。

(鈴木) やっぱり薬学の先輩方のお話ってすごいですよね！明確な目標を持っているというか、具体性がある……セミナーでも医学生と薬学生との会話はすごく専門的だと思って……会話の輪に入らなかつたけど、今の自分だと、話についていけないというか、専門的な会話をやる自信がなくて……

(谷本) そんなことないよ！どんどん、会話に入ってくれば大丈夫だよ！僕も去年は、いろんな社会人の方に自分から声かけて……確かに学生だと、よくわからないこともたくさんあったけど、丁寧にいろいろと教えてくれたよ。

(鈴木) 十分な知識もないのに話を伺うだけっていうのは、なんか失礼な感じで……でも、だからこそもっと病気や薬の勉強もしなくちゃって思えだし、自分は看護師として何ができるんだろう？って考えさせられましたから、今回はそれはそれでいい経験でした！

(椎名) でも、医学とか薬学の知識を知れば知るほど、もっと総合的っていうか、医学的立場とか薬学的立場とかで医療に携わりたいって思わない？

(齋藤) なんとなく、わかる気がします。自分は看

護職だって頭では理解しても、知識が広く深まってくると、自分でいろいろと判断したりしたくなりそうですね。

(椎名) そうだね。でも、そこではじめて「連携」ってことが見てくるのかな？

(鈴木) 他の専門職を知ってことは、本当に難しいですね。単に医学や薬学の知識を身につけるってことではなくて、自分の職種に「どう活かせるのか」を考えなくちゃいけないってことですよね……。知識があるかないかでは、同じ患者さんを診ていても「気づく」こと、その視点が違ってきそうですね。

(椎名) そうだね。薬剤師ってクソりの専門職なのに処方権は医師にあって……すごくシレンマもあると思うけど、だからもっと「病気」を知らなきゃいけないし、その上で薬学的にどう医療に貢献できるのかを考えなきゃいけないんだよね。でもいろんな専門職の人が一人の患者さんを診て、そこで感じたり気づいたことを専門職者が共有できれば、患者さんにとって最適な医療を提供できるんだろうね。

(谷本) 田舎って言う用語弊あるかもしれないけど医療過疎の地域にこそ、もっとインターネット含めICTの活用を考えないといけないよね！

(鈴木) ICTとかによる情報交換は大事だと思うんですが、私はもっとアナログっていうのか……実際に専門職の方が面と向かって情報交換をするべきだと思っています。便利さにはかなわないけど、患者さんの様子とか「文字の羅列」だと誤解が生じることもあるのかな？って。患者さんの「ニュアンス」はやっぱり口で伝えたいなって思っています。

(齋藤) 難しい判断ですよ。たとえば、認知症の患者さんが徘徊で行方不明にならないように、GPSを持たせればいいのかも考えられますよね。そうすれば、いつでもどこに居るのかって、すぐにわかるし……でも、もしGPSがあるから安心して思っちゃったら、その方が「今」どこで何をしているのかってあんまり気に掛かなくなってしまうぞう。近所の方がいつも気にかけているからこそ、コミュニティのつながりみたいなことが生まれるんだろうけど、GPSで安心しちゃったら、逆に地域のつながりが希薄になっちゃいそうな気がします。

(鈴木) 私がGPS持たされたら……なんかいつも監視されているみたいで、いい気はしません。認知症だからって、自分がされて嫌なこと他人にもするべきじゃないのかなって思います。

(谷本) ホント、難しい判断だね。デジタルだからその利便性とアナログだからの温かさっていうのかな。でも最後はリスクマネジメントの観点から、患者さんも、そのご家族も、そして医療者や地域住民も……みんなにとっての「幸せ」っていうのかな……納得した判断をしなくちゃいけないんだよね。

## 皆さんの考えるコミュニティヘルスケア、 未来の地域とはどんなものでしょうか？

(鈴木) 2日目に講演くださった長嶺先生のお話はとても響きました。なんていうのかな……私も、活躍したい！地域に必要とされる人間になりたい！って……。

(椎名) そうだね、まずは信頼される医療人にならなきゃだね。この2日間、地域を診て回っていろいろな方のお話を伺ったけど……医師、保健師、ケアマネ……地域の医療に携わる専門職の名称がいくつも出てきたけど、僕の耳には「薬剤師」っていう職種が届かなかった……。地域に必要とされる医療人になるために……もっと頑張らなきゃ……ですね。

(齋藤) 改めて、地域をもっと知ることから始めなきゃダメなんだって再認識させられました。文化や歴史とかを知ること、地域の人たちとの交流には重要だろうし、地域で生活する人々を知ることが、とても大事なんだなって……。

(谷本) 地域に貢献することの意味も考えさせられたよ。これまでは医療を提供することが、医療者としての地域貢献だと思っていたけど、みんなが住みたくなるようなまちづくりに貢献するってことが、コミュニティヘルスを維持するための大きな役割なのかなって……。やっぱり、人がいてこそまちなんだし、人とのつながりこそが大事なんだなって。

(鈴木) そうだね。地域における高齢化率の上昇は、もうどうにもならないから、そこにある資源を活かして……いって……いって……いって……活気のあるまちづくりに私たち自身も、地域の一員として参加していかないとですね！もっと高齢者のコミュニティを盛り上げるための何かアクションをしなきゃ！

(谷本) 僕は将来、地域に根付いた薬局を経営できたらなって思っていて……地域の人たちの健康相談とか気軽にできるお店にしたいなって……。もちろんそのためにはまだまだ勉強不足なんだけどね(笑)

(鈴木) ……勉強不足は私たちですよ。私は将来、地域で人に寄り添える看護師になりたいなって。でもその前に、まずは大きな病院でしっかりと力をつけて、その先は地域医療を実践したい！

(椎名) うん。専門職連携っていうのも改めて大事なんだなって。他の職種との「代わり」になることではなくて、異なる職種の間がチームになることで、患者さんの幸せに貢献できる可能性を秘めてるんだなって。このセミナーを通じて知りえた人たちとも、これからも情報交換できたらいいよね！

(齋藤) 本当ですね。薬学のことも、もっと教えてください(笑)

(椎名) は。まずはお互い、それぞれの専門領域で、もっと頑張らなきゃだね！

(鈴木) 本当に今回は薬学の方々の考え方や振る舞い、リーダーシップを目の当たりにしたので、来年までに私も自分力を高めてきます！そして、また来年もこのセミナーにチャレンジします。

(谷本) 僕も正直、自分が目指すコミュニティヘルスがどんなものか、ぼんやりしてて……もう1年しっかりというくらいの経験を積んで、来年もう一度このセミナーに参加するよ！

(椎名) 谷本、国家試験の勉強もそれまでに仕上げてください(笑)

(齋藤) みんな同じキャンパスで学んでるわけだし、お互いが刺激しあえる仲間であってほしいですね！

(椎名) そうだね！



椎名 駿(薬学5年)  
関東第一高校出身(東京都)



齋藤 結(看護2年)  
磐城桜が丘高校出身(福島県)



谷本 大樹(薬学5年)  
工学院大学附属高校出身(東京都)



鈴木 満理奈(看護2年)  
生田高校出身(神奈川県)



# 城西国際大学の6年制薬学教育



## 「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

## 九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2014 「この地域を診ることからはじめよう！」

本取組は、平成24年度大学改革推進等補助金 大学間連携共同教育推進事業『実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム(千葉大学、城西国際大学、千葉科学大学)』の補助を受けています。

主催：九十九里コミュニティヘルスケア協議会（地方独立行政法人さんむ医療センター・NPO法人地域医療を育てる会・城西国際大学）  
夏期セミナー実行委員長：篠原靖志（さんむ医療センター 院長） プロジェクトリーダー：川上絵土（同 地域連携室長） 後援：山武市・東金市

九十九里地域におけるヘルスケアに携わる人材育成とヒューマンネットワークの構築を目的として今春、九十九里コミュニティヘルスケア協議会が発足し、最初の夏期セミナーが8月30・31日の両日で開催されました。基調講演には沖縄の離島で人口800人の島「粟国島」の唯一の診療所長を務め、現在は千葉大学 予防医学センターに在籍される長嶺 由衣子先生をお招きし、粟国島での高齢者問題や救急搬送半減に取組まれた活動についてお話しいただきました。



セミナーの成果は・・・寸劇で発表！各チームとも迫真の演技で会場は大盛り上がり！！



### 地域を紡ぐ、希望の星たち ☆

セミナーでは、学生一人ひとりが「地域を診る」という共通認識をもち、さまざまな出会いを経験しました。コミュニティヘルスケアに対する一人ひとりの想いと情熱は、それぞれの専門性の確立に確かなビジョンを与えてくれたと思います。

*If you want to go fast, go alone.  
If you want to go far, go together.*

..... African Proverb

長嶺先生 基調講演より



九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2014 参加者

2015年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: [admis@jiu.ac.jp](mailto:admis@jiu.ac.jp) <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>